

第4期中長期計画期間の追跡評価

課題解決型プログラム

委員会の主要意見	主要意見に対する国環研の考え方
<p>研究成果やメンバーの IPCC AR6 への貢献、AIM による分析結果の国内外での活用、AOGEO や IPBES への貢献、POPs に関するストックホルム条約や水銀に関する水俣条約それぞれに研究成果が反映されたことに加え、国連における新たな科学・政策パネル設置をリードしたことなど、国際的な環境政策制定への貢献が高く評価される。</p>	<p>後継プログラムを通じて、学術と社会実装の両面に取り組み、アジア太平洋における先導的役割と国際認知度を高め、また、IPCC AR7 のサイクルでの一層の貢献を目指すなど、今後も様々な環境問題に貢献できるよう努めます</p>
<p>産学連携に関しても各プログラムでさまざまな取組を行い、社会実装を進めたことも高く評価できる。鳥インフルエンザ型判定手法の開発やヒアリの水際防除など身近な問題への対策や、「高齢者ごみ出し支援ガイドブック」のような社会的システムに関わる具体的なアウトプットは重要である。今後もこのような貢献に期待する。</p>	<p>今後も引き続き、研究、社会貢献に尽力いたします。</p>
<p>研究の全体的な構成は非常に複雑であるが、5 つのプログラムテーマが幅広い問題を適切にカバーする枠組みとなっている。しかし、プログラム間のつながりやコラボレーションが見えない。例えば、再生可能エネルギーの推進が生態系に与える影響など、自然共生 PG と統合 PG との連携はないのか。より詳細な説明があればありがたい。</p>	<p>第5期中長期計画においては、気候危機対応研究イニシアティブの下、再エネの普及と生物多様性保全の両立問題に PG 間で連携して取り組んでいます。 また、第5期の脱炭素・持続社会 PG では生態系サービスを AIM で評価するなど連携を進めております。</p>

災害環境研究プログラム

委員会の主要意見	主要意見に対する国環研の考え方
<p>原発事故で被災した福島県を中心とした実践的な研究により、具体的な技術開発、国の政策への貢献、社会実装への展開、地元との協働が評価できる。</p>	<p>第5期中長期計画の災害環境研究プログラムにおいても、同様の評価をいただけるよう引き続き取組を進めます。</p>
<p>課題解決型研究プログラムのいくつかのプログラムの成果を災害環境プログラムに利用する、または逆のケースのような連携はできるのではないか。</p>	<p>資料には十分記載しませんでした。避難指示区等のイノシシ生息数推定手法において自然共生研究プログラムの成果を活用するなど、課題解決型研究プログラムとの成果の相互利用の実例がいくつかあります。</p>
<p>関連する研究プログラムとの競合や重複がないよう注意が必要なのではないか。</p>	<p>第5期長期計画の災害環境研究プログラムにおいて、他の戦略的研究プログラムと分担、連携し相乗的な成果が得られるよう努めます。</p>
<p>これらの活動・成果が、いわゆる防災研究の一部となり、他の研究機関とのつながりを深めることになると良い。また、より多くの国民に知れ渡ることに努めることができればよい。</p>	<p>他機関との連携の強化、成果の一層の発信や普及について、第5期中長期計画の災害環境研究プログラムにおいても最重要課題のひとつとして、その進展に鋭意努めます。 一般への発信・普及の一例として、外部研究評価委員会当日にもご紹介した「3Dふくしま（3Dで再現した福島県地図のプロジェクトマップ）」を使ったアウトリーチ活動が挙げられます。</p>